

は し が き

平成12年度に新たな岡山県酪農・肉用牛生産近代化計画が樹立され、将来を見据えた酪農・肉用牛経営の姿が明らかにされました。しかし、現状は、BSEの国内発生、あるいは食品表示の問題など、畜産経営にとって、かつてない厳しい環境となっています。

これに対し、政策的な配慮が講ぜられつつありますが、畜産経営自体にも、これまで以上の経営改善が求められています。生産性や生産効率の向上を図り、良質な畜産物を低コストで生産する方向づけは、現在も変わらぬ畜産経営に与えられたテーマとなっています。さらに環境面にも配慮した経営の確立が必要となっています。

一方、大家畜経営には、生産過程が長期であり、かつ複雑という特徴があり、経営改善はそう簡単ではありません。前向きな姿勢で、小さな改善を積み重ねることが重要と考えます。

今回、農業総合センター技術普及課旭分室と農業改良普及センターの協力を得て、県内の畜産経営等における様々な取り組み事例、農家のアイデア等を集めました。自給飼料の生産・利用、飼養管理技術、耕種・畜産の連携など、農業改良普及員が現地で支援し、あるいは見いだした事例が、幅広く掲載されています。

小冊子を参考に、畜産経営の改善がすすめられることを願ってやみません。

平成14年3月

社団法人 岡山県畜産会